

# IAATO バードウォッチングガイドライン

## 海岸の鳥を見るとき

海岸に接近する際、上陸地点または群居地付近で小型ボートを操縦することで、ペンギンなどの鳥を動揺させることがあります。

- 上陸地点や群居地付近では、ゆっくりと走行して極力動揺させないようにします。
- スタッフ/船員は、最善の上陸地点を決定する必要があります。鳥の群れからできるだけ離れた場所が理想的です。これは、鳥が海岸付近で換羽している時に特に重要になります。
- 鳥が入りしりたり、水浴びしたりする場所や、群居地近くの摂食している水域では、ボートの操縦は避けてください。水中の鳥に注意してください。速度を落とすかコースを変えて衝突を避けてください。



## 上陸したら

- ゆっくりと歩き、座って動物を見るよう見学者に勧めてください。群居地や海に出入りするための「歩道」の妨げにならないようにしてください。
- 親鳥が巣に戻るのを妨げると、トウゾクカモメやカモメによる卵や雛の捕食が増加する可能性があります。さらに親鳥は、巣に戻るまでに人間を避けたり最短ルートから逸れたりすることで、貴重なエネルギーを消耗します。
- 露地にある穴や草むらには気を付けてください。鳥の巣があるかもしれません。
- トウゾクカモメ(イエーガー)またはアジサシが急降下を始めたら、子供あるいは巣を守っている可能性があります。元の場所へ退却してください。卵や幼鳥に気を付けてください。カモフラージュされていて、視界から隠れている場合があります。

- いかなる状況でも、鳥を惹きつける「撒き餌」(魚の内臓や油の投入)はしないでください。野生の鳥に決して餌を与えないでください。
- シーズンの後半になると、好奇心旺盛なひな鳥が推奨された距離よりも近づくことがあります。鳥との交流においては、必ず鳥に主導権を持たせることが重要です。



## 鳥までの推奨接近距離

- 巣作りをしている海鳥からは最低5~10メートル離れます。
- 巣作りをしているアホウドリからは少なくとも10メートル、威嚇しているアホウドリからは25メートル離れます。
- 南オオフルマカモメは、特に巣作り中に動揺しやすい傾向があるようです。可能な場合、少なくとも25~50メートル離れてください。
- 鳥の行動に目に見える変化があったら、離れてください。

## 水上の鳥を見るとき

時として、驚くほどの海鳥の群れを見ることができます。例えば、たくさんの鳥が水面で摂食していたり、水中に飛び込んだり、休憩したり、水浴びをしている様子を見られることがあります。これらの鳥の多くは、子供の食べ物を探して何百、何千マイルもの距離を飛んでいたかもしれません。

- これらの群れの端に留まってください。
- 船と小型ボートは少なくとも100メートル離れた場所に留まってください。
- ゾディアックは少なくとも30メートル離れてください。

非常に稀に、泳いでいるペンギンが飛び出したり潜ったりして進みながら、小型ボートのデッキに乗り上がることがあります。

乗員は、ペンギンが自分で水中に戻って行くのを静かに待ってください。通常、手助けする必要はありません。